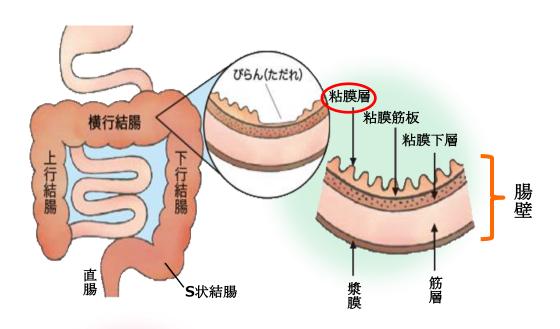
# 遺瘍性大腸炎って どんな病気?

多田消化器内視鏡クリニック 院長 多田 和弘

潰瘍性大腸炎は大腸の粘膜に炎症が生じ、びらんや 潰瘍ができる、未だ原因不明の病気です。 症状が落ち着く「寛解」と再び悪くなる「再燃」を 繰り返すのが特徴で、残念ながら現代の医療では 完治させてしまうのは困難な状況です。 できるだけ長く「寛解」の状態を維持し、不便なく 生活を送って頂けるように薬のコントロールを行う ことが治療の目標となります。

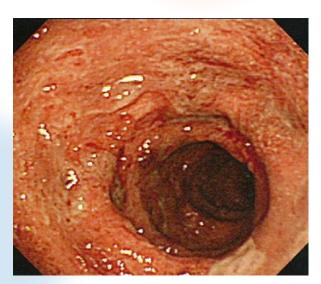




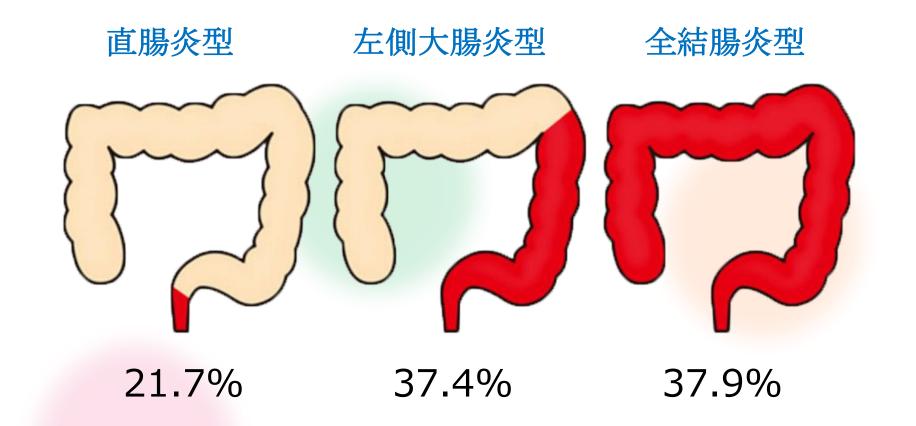


はっきりとした機序は解明されていませんが、 様々な免疫の異常により、大腸表面の粘膜が 障害を受け、びらんや潰瘍を生じます。 右上は炎症のない正常大腸粘膜です。 炎症がひどくなると、右下のように粘膜は浮腫み、 血管透見性が低下し、血液の付着や膿栓が観 察されます。

ひどい場合はびらんや潰瘍も見られます。





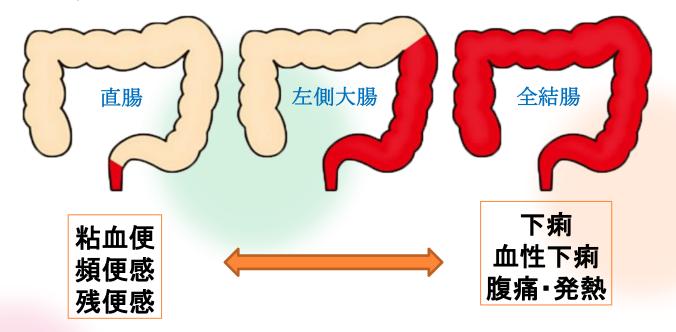


潰瘍性大腸炎の特徴として、「直腸から連続性に続くびまん性炎症」があります。 個人により侵される範囲は様々で、基本的には上記の3パターンに分類します。 診断時からずっと同じ罹患範囲の方もいれば、経過や治療により範囲が狭まっ たり広がったりする方もいらっしゃいます。

基本的には診断時の範囲でその方の治療を考えていくことになります。



#### 潰瘍性大腸炎の症状



罹患範囲や病勢によって、みられる症状や程度は様々です。

直腸炎型では罹患範囲が狭いため、下痢にはなりにくく、茶色便に血液が付着したり、白色の粘液やイチゴジャムの様な粘血便だけの排泄があったりします。 炎症が強くなると、頻回の便意や残便感が訴えとしてよく聞かれます。

全結腸炎型のように罹患範囲が広がると、大腸の機能が破綻し、便が固められず下痢となります。炎症の程度が強くなれば血が混じる血性下痢となり、更には全身症状である発熱や腹痛を伴うようになります。

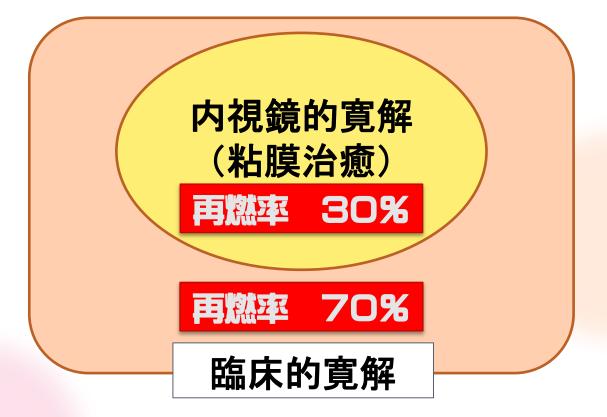
消化器内視鏡クリニック

### 潰瘍性大腸炎の重症度分類

	軽症	中等症	重症
①排便回数	4回以下	重症と軽症	6回以上
②顕血便	(+)~(-)		(+++)
③発熱	(-)		37.5℃以上
④頻脈	(-)	の中間	90/分以上
⑤貧血	(-)		Hb10g/dL以下
⑥赤沈	正常		30mm/h以上

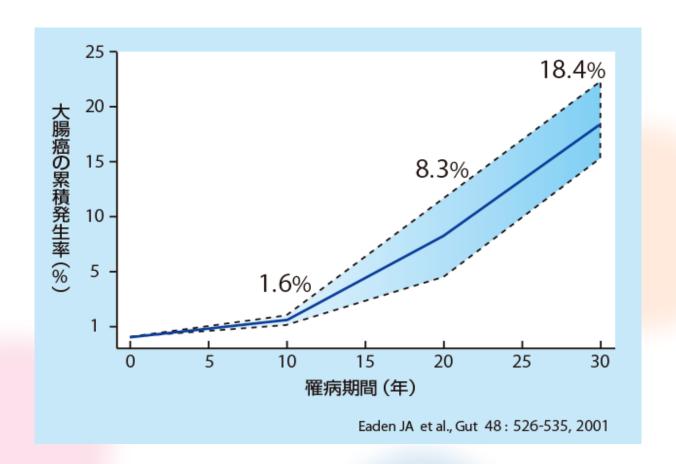
この分類は、治療方法を検討する際に利用するだけでなく、医療費助成の申請の際にも重要となります。軽症は全ての項目を満たしたもの、重症は①②+③or④、および6項目中4項目以上を満たしたものです。それ以外は全て中等症となります。





治療目標としては、症状が無く日常生活を問題なく過ごせる<u>臨床的寛解</u>と、 内視鏡検査で見て粘膜そのものに炎症がみられない<u>内視鏡的寛解</u>の二つが あります。内視鏡観察では炎症が残っているのに症状は無いということもあり ますので、後者の方が治療目標としては高いものになりますが、近年の研究 結果としては 粘膜治癒が得られた方が再燃率が低いことが報告されており、 内視鏡検査を定期的に行いながら、粘膜治癒を目指すことが大切です。



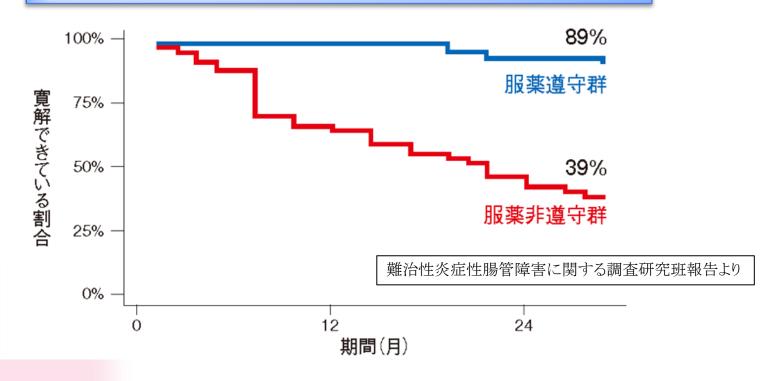


潰瘍性大腸炎罹患期間の長期化とともに、大腸がん発生率の上昇も 報告されています。

治療目標である「粘膜治癒」評価のためにも大腸カメラは不可欠であり、 大腸癌早期発見のために、**1-2**年に**1**回の大腸カメラを受けて頂く事を お勧めします。

多田消化器内視鏡クリニック

## 病状が落ち着けば、薬は中止できる?



悩ましいのが、最低限の薬で症状が完全に落ち着いてしまった人への対応です。 まだ、十分な研究結果がそろっておらず、はっきりとした方針は決定していないの が現状でありますが、グラフに示すように**5-ASA**製剤をきっちり服用していた人と、 のみ忘れがちであった人との間には再燃率に明らかな差があったとされています。 現時点では、少量でも**5-ASA**製剤は飲み続けて頂くというのが基本方針です。



# 潰瘍性大腸炎と妊娠

再燃して体調が悪い時や、ステロイドを服用中では 一時的に月経不順や無月経になることがあります。

妊娠・出産は寛解期に。 活動期だと、流早産や病状の悪化のリスクが高まります。

最近の研究結果では、治療薬により 流早産・胎児奇形の危険が高まることはなさそうです。

服薬中の授乳に関しては、特別な制限はありません。 休薬による病状悪化の方が問題であるため、休薬はしない様に



### 難病医療費助成制度をご存知ですか?

#### ○ 医療費助成における自己負担上限額(月額)

(単位:円)

ntk sa	<b>階層区分の基準</b> (()内の数字は、夫婦2人世帯 の場合における年収の目安		自己負担上限額(外来+入院)(患者負担割合:2割)		
階層 区分			一般	高額かつ 長期*	人工呼吸器等 装着者
生活保護	<del></del>		0	0	0
低所得 I	市町村民税 非課税 (世帯)	本人年収 ~ 80万円	2,500	2,500	
低所得Ⅱ		本人年収 80万円超~	5,000	5,000	
一般所得 I	市町村民税 課税以上7.1万円未満 (約160万円~約370万円)		10,000	5,000	1,000
一般所得Ⅱ	市町村民税 7.1万円以上25.1万円未満 (約370万円~約810万円)		20,000	10,000	
上位所得	市町村民税25.1万円以上 (約810万円~)		30,000	20,000	
入院時の食費			全額自己負担		

※「高額かつ長期」とは、月ごとの医療費総額が5万円を超える月が年間6回以上ある者(例えば医療保険の2割負担の場合、 医療費の自己負担が1万円を超える月が年間6回以上)。

難病情報センターHPより

潰瘍性大腸炎は治療法の確立していない難病の一つに指定されており、 治療法確立促進のため、自身の治療情報を提供する代わりに医療費の 助成を受けることができます。詳細は「難病情報センター」**HP**や、各市町 村役所へお問い合わせ下さい。

# 軽症高額該当について

医療費助成対象者は、中等症から重症の方に限定されており、症状がない 軽症の方は対象となりません。

ただし、症状は軽症に分類されても、様々な高価な薬を使用することで落ち 着かれている方も居られるため、そのような方のための救済処置もあります。

月ごとの医療費総額が33,330円を超える月が、12か月以内に3月以上ある患者については、支給認定を行う。

#### 《確認方法》

- ①医療費申告書に領収書等を添付(新規申請の場合)
- ②自己負担上限管理票(更新申請の場合)



# 難病医療費助成制度

これらの申請は全て自己申告です。

大切な権利を失わない様に、ご自身

の医療費はきっちり確認してください。

(不明な事は遠慮なく役所にお問合

わせください)

